自 殺 実 態 白 書 2008

【 第 二 版 】

2008 年 7 月

自殺実態解析プロジェクトチーム

自殺は、人の命に関わる

極めて「個人的な問題」である

しかし同時に

自殺は「社会的な問題」であり

「社会構造的な問題」でもある

自殺実態白書 2008【第二版】

目　次

はじめに・・・

【中国・四国】 鳥取 328 島根 331 岡山 334 広島 338 山口 344 徳島 348 香川 352
愛媛 355 高知 359
【九州・沖縄】 福岡 363 佐賀 373 長崎 377 熊本 381 大分 387 宮崎 391 鹿児島 397
沖縄 403

自殺のハイリスク地 409
・警察署別自殺者数（2004-2006 年合計）上位 100 署
・2 大要因別・警察署別自殺者数（2004-2006 年）上位 50 署
・3 大職業別・警察署別自殺者数（2004-2006 年）上位 50 署

警察署別の被雇用者自殺者数上位 50 署における自殺要因と被雇用者の傾向について（考察） 414

第三章　自殺の社会的要因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・417

98 年 3 月ショック：中高年による自殺急増の背景 419

10 年連続ショック：被雇用者による自殺増加の背景 426

国際比較で見る日本の「自殺の社会的背景」の意味 430

自殺による経済的損失 442

第四章　自死遺族の実状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・451

自死遺族数の推計 453

自死遺族の実状（「自殺実態 1000 人調査」から） 460
・自殺に対する偏見にさらされる遺族
・警察や医療機関の対応に深く傷つくことも
・自死遺族の 4 人に 1 人が「自分も死にたい」
・自殺の「サイン」について
・時間が経ってもなくならない抑うつ感
・長期にわたり、悩みや困難を抱え続ける自死遺族
・時が経つにつれ深刻化する家計の悩み
・死後の手続き等の悩み
・「自死遺族のつどい」について
・直後の周囲からの言葉や反応で支えになったもの
・「1000 人調査」に参加したご遺族の声

考察：「1000 人調査」に参加して 472

所感　～おわりに に代えて～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・475

はじめに

まずはじっくりと、下記の図表を見て欲しい。

驚くほど、地域によって自殺の特性が違うことがお分かりいただけるだろう。

以下、本書「第二章　自殺の地域特性」からの抜粋である。

■ 宮城・仙台市青葉区
（警察署：仙台中央*、仙台北、仙台東*）

	年代	性	職業	自殺者数
1	30～39	男	被雇用者	27
1	60～	男	無職者	27
3	60～	女	無職者	26
4	40～49	男	被雇用者	25
5	50～59	男	無職者	20
6	50～59	男	被雇用者	19
7	20～29	男	学生生徒	18
8	30～39	女	無職者	16
9	50～59	女	無職者	15
9	20～29	男	被雇用者	15

■ 埼玉・さいたま市浦和区
（警察署：浦和*、浦和西*）

	年代	性	職業	自殺者数
1	60～	男	無職者	37
2	60～	女	無職者	27
3	30～39	女	無職者	18
4	40～49	女	無職者	15
5	20～29	女	無職者	14
6	30～39	男	被雇用者	13
7	40～49	男	被雇用者	12
7	50～59	女	無職者	12
7	50～59	男	無職者	12
10	40～49	男	無職者	11

■ 東京・武蔵野市
（警察署：武蔵野）

	年代	性	職業	自殺者数
1	60～	女	無職者	8
2	20～29	女	無職者	6
2	30～39	男	無職者	6
2	30～39	女	無職者	6
5	40～49	男	無職者	5
5	20～29	女	被雇用者	5
5	30～39	女	被雇用者	5
5	60～	男	無職者	5
5	20～29	男	学生生徒	5
10			(他2件)	4

■ 愛知・豊田市
（警察署：豊田*、足助）

	年代	性	職業	自殺者数
1	60～	男	無職者	43
2	60～	女	無職者	29
3	30～39	男	被雇用者	26
4	40～49	男	被雇用者	23
4	50～59	男	被雇用者	23
6	20～29	男	被雇用者	22
7	50～59	男	無職者	17
8	50～59	女	無職者	13
9	20～29	男	無職者	11
9	30～39	男	無職者	11

■ 大阪・大阪市西区
（警察署：西）

	年代	性	職業	自殺者数
1	40～49	男	自営者	6
2	50～59	男	自営者	5
3	50～59	男	被雇用者	4
3	20～29	男	被雇用者	4
3	20～29	女	無職者	4
3	60～	女	無職者	4
3	50～59	男	無職者	4
3	30～39	男	被雇用者	4
9	60～	男	無職者	3以下
9			(他2件)	3以下

■ 東京・東久留米市
（警察署：田無*）

	年代	性	職業	自殺者数
1	60～	女	無職者	24
2	60～	男	無職者	22
3	30～39	女	無職者	10
4	50～59	女	無職者	8
5	50～59	男	無職者	7
6	40～49	女	無職者	6
7	60～	男	自営者	5
7	20～29	男	無職者	5
7	40～49	男	無職者	5
7			(他2件)	5

こうした自殺の「地域特性」や、自殺の「危機経路（共通のプロセス）」。自死遺族の実状や、10 年続く「年間自殺者 3 万人」の社会的背景など。

本書は、日本の自殺実態に関するはじめての大規模調査をまとめたものである。

経済や法律、医療や福祉などの分野から有志が集まり、「自殺実態解析プロジェクトチーム」を結成したのが今年４月。以来、限られた時間の中で、しかし様々な角度から自殺の実態を明らかにしようと、延べ数百時間に及ぶ議論を交わす中でまとめ上げてきた。

本書の最大かつ唯一の目的は、自殺に追い込まれる人を一人でも減らすことである。

そのために、実践的な対策に直結するような形で、自殺の実態を詳らかにするよう努めた。

具体的には、従来のように自殺率に注目するのではなく、自殺者の実数を重視することとした。

人間は決して「率」で図れるものではない。かけがえのない命を一つでも多く守っていこうという意志を込めて、あえて自殺者の「数」に重きを置いて解析を進めた。

また、考察やコメントは、必要最低限に留めた。

「事実」が語りかけてくると言うべきだろうか。亡くなった人たちが、「データ」となって語りかけてくるその「声」に、ただひたすらに耳を傾けたつもりである。

本書に盛り込まれている様々なデータは、単なる数字ではない。

自殺で亡くなった人たちが遺した「生きた軌跡」でもある。

亡くなられた方々の面影を感じながら、だから本書を読み進めていただければと思う。

本書は、これまでの自殺対策のありようを一変させるだけのチカラを持っている。

あとは私たちがどれだけのことを本書から学べるかが問われるのみである。

自殺実態解析プロジェクトチーム

清水康之

自殺実態解析プロジェクトチーム

自殺実態解析プロジェクトチームは、民間の有志で作る任意団体です。
ＮＰＯ法人ライフリンクと東京大学経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター内ＳＯＳ（Studies on Suicide）プロジェクトのメンバー、自殺対策に取り組む実務家や自死遺族が、必要に応じて柔軟に連携し合いながら、ひとつのチームを組んで活動しています。

【コアメンバー】
生越照幸（弁護士）、上村美輪子（ライフリンク）、川﨑政宏（弁護士）、〇澤田康幸（東京大学経済学研究科准教授）、島悟（精神科医）、◎清水康之（ライフリンク）、菅野早紀（東大大学院）、根岸親（ライフリンク）、松木佑介（東大大学院）、森浩太（東大大学院）、森山花鈴（ライフリンク）、山口和浩（自死遺族遺族ネットワークＲｅ）、岡檀（慶応大大学院）

◎リーダー、〇サブリーダー

【協力者】
金子能宏（国立社会保障・人口問題研究所）、Joe Chen（東大大学院専任講師）、Yun Jeong Choi（東大大学院専任講師）、小原美樹（神田東クリニック）、高安陶子（神田東クリニック）、日本司法書士会連合会、株式会社アットデータ、有限会社マップ・タンク、自殺対策を考える議員有志の会

【事務局（ライフリンク）】
藤澤克己、藤原匡宣、小池亜希子、吉田真理、平川悦子、大家萌々子、西川有希

【「自殺実態 1000 人調査」メンバー】
石倉紘子（こころのカフェきょうと）、井上久美子（リメンバー福岡）、甲斐妙子（宮崎自殺防止センター）、金子久美子（れんげの会）、久保井康典（ライフリンク）、黒水宣行（宮崎自殺防止センター）、斉藤勇輝（ライフリンク）、佐藤久男（秋田 蜘蛛の糸）、杉本脩子（全国自死遺族総合支援センター）、南部節子（ライフリンク）、西田正弘（ライフリンク）、野々山尚志（ライフリンク）、弘中照美（多重債務による自死をなくす会）、弘中隆之（多重債務による自死をなくす会）、福山なおみ（ライフリンク）、藤本佳史（ライフリンク）、松尾幸子（ライフリンク）、渡邉文隆（ライフリンク）、305 人のご遺族

【協賛】
日本財団、株式会社セントラル総合研究所

【経緯】

07 年 1 月　ライフリンクが「声なき声に耳を傾ける　自殺実態 1000 人調査」チームを発足

4 月　調査開始

7 月　「1000 人調査」が、東京大学 21 世紀プログラム 21 世紀 COE プログラム「市場経済と非市場機構との連関研究拠点（CEMANO)」との合同事業に

9 月　第三回「WHO 世界自殺予防デー」フォーラムで、「1000 人調査」の中間報告として「100 人分の調査解析結果」を発表

08 年 4 月　ライフリンクと東大の合同チームを中心に「自殺実態解析プロジェクト」チームを発足

7 月　32 回の会合を重ねて「自殺実態白書 2008（第一版)」をまとめ、自殺対策担当の岸田文雄大臣に提出

現在、調査を継続中

◇ ◇ ◇